



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2015年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 聖書日課に励もう
3. 祈り会に参加しよう
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈禱会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧師 : 杉村 幸 (日本語部)  
 : 益田デーロ (英語部)  
 電話 : (714) 827-6244 (教会)  
 : (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
 Cypress, CA 90630

石 叫  
 私は津軽の出身だから分かるのだが、時に地吹雪になると、前も後ろも見境がつかなくなる。それは雪が下から吹き上げてくるからで、地元ではもつとも恐れられている冬の猛威の一つである。ましてや北海道、お父さんは娘を迎えに出たその帰り道で暴風雪に遭ってしまった。もしガソリンがあつたなら、吹き溜まりにぶつかってドライブ出来なくなっても、車の暖房を効かすことが出来たであろう。でも、あまりの寒さのためにじっとしていることもできず、車外に出て近所にいる人に助けを求めなければならなかった。住み慣れた自分の町にして道を迷うほどの暴風雪だ、父はそれを百も千も承知の上で車外に出たはずである。それはひとえに寒さに凍える愛娘を助けるためであった。  
 聖書に、「主は、わたしたちのためにいのちを捨てて下さった。それによって、わたしたちは愛をいうことを知った」(1ヨハネ3:16)とある。主イエスは罪から抜け出せずにいた私たちをその罪から救い、罪の火矢から私たちをかばうために、ご自身の身体で包み込むかのようにして十字架について死んで下さったのである。その十字架の愛という温かさのゆえに、私たちは救われたのである。そのキリストの愛にあなたも包まれて生きて欲しいと心から願う。

石 叫  
 「父の愛の温かさ」  
 「昨年のことだが、『羅府新報』(三月十四日付)の「早読み!週刊誌」にあったものだ。「誰もが涙したのではないだろうか。3月3日、北海道では猛吹雪の中、9歳の娘を抱いたまま父親が亡くなった」という詳細を伝えている。  
 五十三歳の父親はサロマ湖でカキやホタテの養殖を手掛ける漁師だったという。すでに両親と妻は亡く、男手ひとつで娘を育てていた。父親は仕事を終え、軽トラックで「児童センター」に預けていた娘を迎えに行った。その帰宅途中、1メートル先も見えないような暴風雪に襲われた。父娘は、軽トラックが雪にはまっただけで動けず、ガソリンもなくなってきたことから、近くの知人宅に向かおうと車外に出たようだ。父親は自分のジャンパーを脱ぎ、スキーウェアを着ていた娘にさらに着せかけ、自分はシャツ一枚となって、自分の体温で娘を温め続けた。父親の遺体に対面した親族によると、「父親は娘を両手に抱きかかえる姿勢のまま硬直」。しかし『やりきった』という表情をしていた」という。最愛の娘を救った父親の愛にただただ感服するしかない。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウェスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

